



大学の講義棟における災害時避難に関する一考察

北島徹也¹⁾、伊津野和行²⁾、八木康夫³⁾、大窪健之⁴⁾

- 1) 非会員 西日本電信電話株式会社 (研究当時、立命館大学大学院生) 工修
e-mail : kitajima.tetsuya@hokuriku.ntt-west.jp
- 2) 正会員 立命館大学理工学部 教授 博(工)
e-mail : izuno@se.ritsumeai.ac.jp
- 3) 正会員 関西学院大学総合政策学部 教授 博(工)
e-mail : yagi567@kwansei.ac.jp
- 4) 非会員 立命館大学理工学部 教授 博(工)
e-mail : okubo-t@se.ritsumeai.ac.jp

要 約

大学の講義棟は、多人数が同時に滞在する施設であり、曜日や時間帯によって利用状況は変化する。本研究は、市販の避難シミュレーションソフトウェアによって講義棟から外へ避難する状況について検討し、災害時の安全性向上への基礎資料を提供とすることを目的とした。その結果、避難状況は効率ごとに3段階に分けられ、それぞれの時間を短くする対策が必要であることを示した。避難誘導だけでは効果が低い結果となったため、物理的な対策も重要であることが明らかとなった。

キーワード： 避難シミュレーション、避難誘導、大学キャンパス